

第13章 外国人人口

1 外国人人口の推移と国籍

外国人人口は175万2千人で6.3%の増加

国勢調査では、我が国に常住する全ての人を調査しており、外国人についても、外国政府の外交使節団・領事機関の構成員（随員を含む。）とその家族及び外国軍隊の軍人・軍属とその家族を除いて調査の対象としている。

平成27年国勢調査による我が国に常住する外国人人口は175万2千人で、22年に比べ10万4千人、6.3%の増加となっている。

昭和25年以降の外国人人口の推移をみると、25年から55年までは、50～60万人台（総人口に占める割合は0.6%前後）と大きな変動なく推移し、60年に72万人（同0.6%）となった。その後、平成2年には88万6千人（同0.7%）となり、7年には114万人（同0.9%）と100万人を超え、12年には131万1千人（同1.0%）と総人口に占める割合が1%を上回り、27年には175万2千人（同1.4%）と更に増加している。このように、我が国に居住する外国人人口は特に平成2年以降、数、割合共に増加している。（表13-1）

国籍が「中国」の者が51万1千人と最も多く、平成22年に引き続き割合が上昇

外国人人口を国籍別にみると、「中国」が51万1千人（外国人人口の29.2%）と最も多く、次いで「韓国、朝鮮」が37万7千人（同21.5%）、「フィリピン」が17万2千人（同9.8%）、「ブラジル」が12万6千人（同7.2%）、「ベトナム」が8万7千人（同5.0%）、「アメリカ」が4万1千人（同2.4%）などとなっている。

外国人人口の割合を平成22年と比べると、「韓国、朝鮮」は4.2ポイント低下、「ブラジル」は2.1ポイント低下しているのに対し、「ベトナム」は3.2ポイント上昇、「中国」は1.2ポイント上昇、「フィリピン」は1.0ポイント上昇している。特に「中国」の割合は、昭和55年以降一貫して上昇しており、平成22年以降は「韓国、朝鮮」を上回って、最も割合が高くなっている。

昭和25年以降の外国人人口の割合を国籍別にみると、60年までは「韓国、朝鮮」が外国人人口の約8～9割を占めていたが、平成27年には21.5%（37万7千人）となっている。また、「中国」は、昭和25年以降7%前後で推移していたが、60年以降は上昇を続け、平成27年には29.2%（51万1千人）となっている。「アメリカ」は、昭和25年の0.9%（5千人）から上昇して、平成2年には3.8%（3万3千人）となり、その後低下し、22年には2.3%（3万8千人）となったが、27年には2.4%（4万1千人）と再び上昇している。

「韓国、朝鮮」、「中国」及び「アメリカ」以外の国籍を持つ外国人人口の割合は、昭和35年以降は一貫して上昇していたものの、60年においては6.8%（4万9千人）に過ぎなかった。その後、平成2年には19.9%（17万6千人）、12年には37.3%（48万9千人）、27年には47.0%（82万3千人）と大幅な上昇となっている。

このように、外国人人口の増加に伴って、国籍の多様化が進んでいる。（表13-2）

表13-1 総人口、外国人人口及び日本人人口の推移—全国（大正9年～平成27年）

年次	総人口 (千人)	外国人人口			日本人人口	日本人・ 外国人の別 「不詳」	外国人の 人口性比	総人口に占める 外国人人口の 割合(%)
		総数	男	女				
大正 9年	55,963	78	63	15	425.1	0.1
昭和 5年	64,450	478	341	137	249.2	0.7
15年	73,114	1,304	788	516	152.6	1.8
25年	84,115	529	299	230	129.6	0.6
30年	90,077	598	328	270	121.7	0.7
35年	94,302	579	312	266	117.4	0.6
40年	99,209	596	317	279	113.7	0.6
45年	104,665	604	319	285	104,061	-	112.1	0.6
50年	111,940	642	335	307	111,252	46	109.2	0.6
55年	117,060	669	344	325	116,320	71	105.8	0.6
60年	121,049	720	364	356	120,287	41	102.3	0.6
平成 2年	123,611	886	445	441	122,398	326	101.0	0.7
7年	125,570	1,140	567	574	124,299	131	98.8	0.9
12年	126,926	1,311	621	689	125,387	229	90.1	1.0
17年	127,768	1,556	727	829	125,730	482	87.7	1.2
22年	128,057	1,648	742	906	125,359	1,050	82.0	1.3
27年	127,095	1,752	807	945	124,284	1,058	85.4	1.4

表13-2 国籍別外国人人口の推移—全国（大正9年～平成27年）

年次	総数	韓国, 朝鮮	中国	アメリカ	その他				
					総数	ブラジル	フィリピン	ベトナム	その他 ¹⁾
実数(千人)									
大正 9年	78	41	24	4	9
昭和 5年	478	419	44	4	11
15年	1,304	1,241	46	5	12
25年	529	464	40	5	20
30年 ²⁾	597 ¹⁾	540	41	8	9
35年	579	516 ²⁾	41	11 ¹⁾⁶⁾	11
40年 ³⁾	593	520 ²⁾	44	14 ⁶⁾	15
45年	604	520	45	18	22
50年	642	559	40	19	25
55年	669 ¹⁾	558	44	19	30
60年	720 ¹⁾	571	61	25	49
平成 2年 ⁴⁾	886	568	109	33	176	42	36	5	93
7年 ⁴⁾	1,140	560	176	39	365	134	68	8	155
12年 ⁴⁾	1,311	529	253	39	489	188	94	13	194
17年 ⁴⁾	1,556	473	353	39	691	215	126	21	328
22年	1,648	423	460	38	726	153	146	30	397
27年	1,752	377	511	41	823	126	172	87	437
割合(%) ⁵⁾									
大正 9年	100.0	52.2	30.9	5.1	11.8
昭和 5年	100.0	87.7	9.2	0.8	2.4
15年	100.0	95.2	3.5	0.4	1.0
25年	100.0	87.8	7.6	0.9	3.7
30年 ²⁾	100.0 ¹⁾	90.3	6.8	1.3	1.6
35年	100.0	89.2 ²⁾	7.0	1.8 ¹⁾⁶⁾	1.9
40年 ³⁾	100.0	87.8 ²⁾	7.4	2.3 ⁶⁾	2.5
45年	100.0	86.1	7.4	2.9	3.6
50年	100.0	87.1	6.2	2.9	3.9
55年	100.0 ¹⁾	83.4	6.5	2.8	4.4
60年	100.0 ¹⁾	79.3	8.4	3.5	6.8
平成 2年 ⁴⁾	100.0	64.0	12.3	3.8	19.9	4.8	4.1	0.6	10.5
7年 ⁴⁾	100.0	49.1	15.4	3.4	32.0	11.7	6.0	0.7	13.6
12年 ⁴⁾	100.0	40.4	19.3	3.0	37.3	14.4	7.1	1.0	14.8
17年 ⁴⁾	100.0	30.4	22.7	2.5	44.4	13.9	8.1	1.3	21.1
22年	100.0	25.7	27.9	2.3	44.1	9.3	8.9	1.8	24.1
27年	100.0	21.5	29.2	2.4	47.0	7.2	9.8	5.0	25.0
平成22～27年の差 (ポイント)	-	-4.2	1.2	0.0	2.9	-2.1	1.0	3.2	0.9

1) 無国籍及び国名「不詳」を含む。 2) 沖縄県を含めない。 3) 20%抽出集計結果による。

4) 外国人に関する特別集計結果による。 5) 分母に無国籍及び国名「不詳」を含めて算出

6) 沖縄県に住む韓国人、朝鮮人を含む。

人口増加率はアジア州の国籍で高く、人口減少率は南アメリカ州の国籍で高い傾向

州別に外国人人口をみると、アジア州が131万2千人と最も多く、外国人総数に占める割合は82.1%となっている。一方、アジア州以外の割合は、おおむね1割未満となっており、オセアニア州が0.6%と最も低くなっている。

また、国籍別人口が2千人以上の国について、平成22～27年の人口増加率をみると、「ネパール」が238.8%と最も高く、次いで「ベトナム」(191.9%)、「ミャンマー」(87.3%)、「カンボジア」(82.8%)、「トルコ」(68.4%) などとなっており、アジア州で人口増加率が高くなっている。一方、人口減少率は、「ブラジル」が17.7%と最も高く、次いで「韓国、朝鮮」(10.9%)、「イラン」及び「アルゼンチン」(8.7%)、「ペルー」(6.0%) などとなっており、おおむね南アメリカ州で人口減少率が高い傾向となっている。(表13-3)

表 13-3 国籍別外国人人口－全国（平成22年、27年）

国籍 1)	人口 (人)				割合 (%)		平成22～27年	
	平成27年	順位	22年	順位	平成27年	22年	増減数 (人)	増減率 (%)
外国人総数 2)	1,752,368	-	1,648,037	-	100.0	100.0	104,331	6.3
アジア	1,311,741	1	1,171,284	1	82.1	79.5	140,457	12.0
南アメリカ	170,078	2	199,669	2	10.6	13.6	-29,591	-14.8
北アメリカ	51,677	3	47,879	3	3.2	3.2	3,798	7.9
ヨーロッパ	45,539	4	37,877	4	2.9	2.6	7,662	20.2
アフリカ	9,169	5	7,652	6	0.6	0.5	1,517	19.8
オセアニア	9,073	6	8,855	5	0.6	0.6	218	2.5
中国	511,118	1	460,459	1	32.0	31.3	50,659	11.0
韓国、朝鮮	376,954	2	423,273	2	23.6	28.7	-46,319	-10.9
フィリピン	172,457	3	145,950	4	10.8	9.9	26,507	18.2
ブラジル	126,091	4	153,166	3	7.9	10.4	-27,075	-17.7
ベトナム	87,109	5	29,843	7	5.5	2.0	57,266	191.9
アメリカ	41,405	6	38,327	5	2.6	2.6	3,078	8.0
ペルー	34,575	7	36,776	6	2.2	2.5	-2,201	-6.0
タイ	33,843	8	29,716	8	2.1	2.0	4,127	13.9
ネパール	28,632	9	8,452	12	1.8	0.6	20,180	238.8
インドネシア	25,516	10	18,539	9	1.6	1.3	6,977	37.6
インド	16,492	11	12,033	10	1.0	0.8	4,459	37.1
イギリス	11,055	12	9,872	11	0.7	0.7	1,183	12.0
ミャンマー	9,247	13	4,937	19	0.6	0.3	4,310	87.3
スリランカ	7,500	14	4,828	20	0.5	0.3	2,672	55.3
パキスタン	7,406	15	5,467	18	0.5	0.4	1,939	35.5
フランス	7,315	16	5,756	16	0.5	0.4	1,559	27.1
カナダ	7,016	17	6,872	13	0.4	0.5	144	2.1
バングラデシュ	6,979	18	5,624	17	0.4	0.4	1,355	24.1
オーストラリア	6,434	19	6,145	14	0.4	0.4	289	4.7
マレーシア	6,316	20	5,869	15	0.4	0.4	447	7.6
ロシア	5,712	21	4,765	21	0.4	0.3	947	19.9
ドイツ	4,468	22	4,128	22	0.3	0.3	340	8.2
モンゴル	4,193	23	3,140	25	0.3	0.2	1,053	33.5
カンボジア	3,637	24	1,990	29	0.2	0.1	1,647	82.8
ボリビア	3,374	25	3,458	23	0.2	0.2	-84	-2.4
イラン	3,132	26	3,430	24	0.2	0.2	-298	-8.7
トルコ	2,615	27	1,553	33	0.2	0.1	1,062	68.4
イタリア	2,499	28	1,747	30	0.2	0.1	752	43.0
ニュージーランド	2,200	29	2,295	26	0.1	0.2	-95	-4.1
アルゼンチン	2,067	30	2,263	27	0.1	0.2	-196	-8.7
ラオス	2,010	31	2,057	28	0.1	0.1	-47	-2.3

注) 州区分は、平成27年国勢調査国籍詳細区分による分類に基づく。

- 1) 人口2千未満の国籍を含めない。
- 2) 無国籍及び国名「不詳」を含む。

2 外国人の男女，年齢

外国人の人口性比は85.4，国籍により大きな差異

外国人人口を男女別にみると，男性が80万7千人，女性が94万5千人で，女性が男性に比べて13万8千人多く，人口性比は85.4と日本人人口の人口性比94.8を9.4ポイント下回っている。外国人の人口性比の推移をみると，大正9年は425.1と男性が女性の4倍以上であったが，昭和5年は249.2と大きく低下した。その後も低下を続け，平成7年には98.8と初めて女性が男性を上回り，22年は82.0と更に低下したが，27年には85.4と，大正9年の調査開始以来，初めての上昇となっている。

人口性比を国籍別にみると，「イギリス」(310.8)，「アメリカ」(198.4)，「インドネシア」(190.7)，「インド」(188.3)などでは男性が多く，一方，「フィリピン」(33.2)や「タイ」(33.5)，「中国」(68.7)，「韓国，朝鮮」(82.9)などでは女性が多くなっている。このように，国籍によって人口性比には大きな差異が見られる。(図13-1，表13-1，表13-4)

15～64歳人口の割合が高い東南アジアの国々

外国人の年齢3区分別人口の割合をみると，15歳未満人口が9.2%，15～64歳人口が83.2%，65歳以上人口が7.6%となっている。これを日本人人口の割合と比べると，15歳未満人口及び65歳以上人口の割合が低く，15～64歳人口の割合が高くなっている。

国籍別にみると，15歳未満人口は，「ペルー」が18.6%，「インド」が18.2%，「ブラジル」が18.1%となっており，15歳未満人口全体の割合(9.2%)の約2倍となっている。15～64歳人口は，「タイ」(95.1%)，「インドネシア」(93.0%)及び「ベトナム」(92.9%)で9割を超えている。また，65歳以上人口は，「韓国，朝鮮」が24.6%となっており，65歳以上全体の割合(7.6%)の3倍以上となっている。

人口ピラミッドをみると，人口性比が100に近く，15歳未満人口が2割程度を占める「ブラジル」では，左右対称に近く，20～24歳を中心としてへこんだ形となっている。「ベトナム」は，20歳から29歳までの各年齢階級において，他の年齢階級と比べ男女共に割合が高くなっている。「アメリカ」は25歳以上の各年齢階級で男性が女性に比べ多くなっており，逆に「フィリピン」は25歳以上の各年齢階級で女性が男性に比べ多くなっている。また，外国人人口が最も多い「中国」と，次いで多い「韓国，朝鮮」は，特に20歳以上の各年齢階級において形が大きく異なっている。

(図13-1，表13-4)

図 13-1 国籍別外国人人口の人口ピラミッド—全国（平成 27 年）

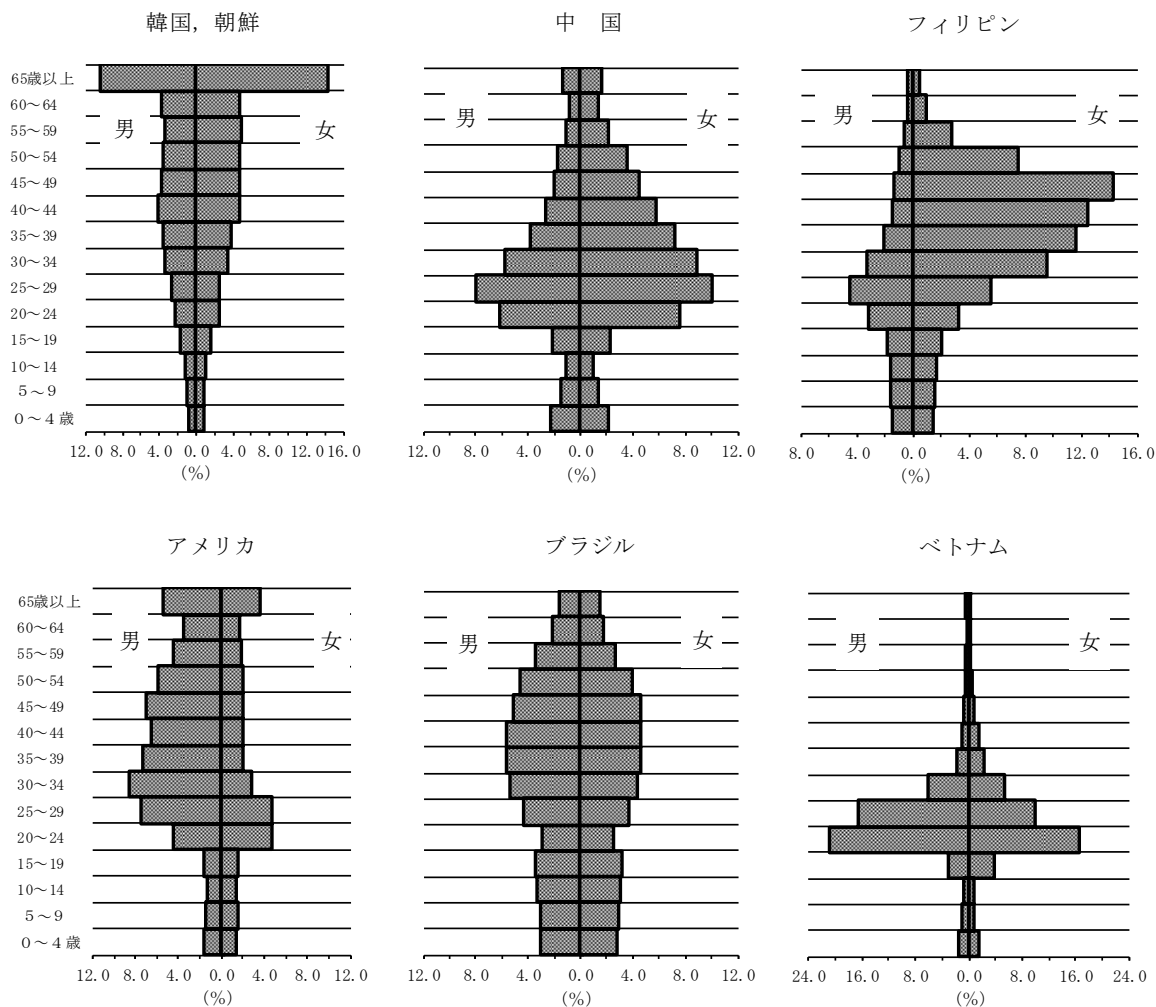


表 13-4 国籍，年齢（3区分）別外国人人口—全国（平成 27 年）

国籍	人 口 (人)					割 合 (%)				人 口 性 比
	総 数	15 歳 未 満	15 ～ 64 歳	65 歳 以 上	年 齢 「不 詳」	総 数	15 歳 未 満	15 ～ 64 歳	65 歳 以 上	
総 数	1,752,368	159,574	1,436,193	131,237	25,364	100.0	9.2	83.2	7.6	85.4
韓国, 朝鮮	376,954	21,901	260,764	92,266	2,023	100.0	5.8	69.5	24.6	82.9
中国	511,118	46,777	443,626	15,197	5,518	100.0	9.3	87.7	3.0	68.7
フィリピン	172,457	15,873	154,340	1,483	761	100.0	9.2	89.9	0.9	33.2
タイ	33,843	1,189	32,030	449	175	100.0	3.5	95.1	1.3	33.5
インドネシア	25,516	1,613	23,549	166	188	100.0	6.4	93.0	0.7	190.7
ベトナム	87,109	5,435	80,081	684	909	100.0	6.3	92.9	0.8	123.5
インド	16,492	2,983	13,154	250	105	100.0	18.2	80.3	1.5	188.3
イギリス	11,055	508	9,858	636	53	100.0	4.6	89.6	5.8	310.8
アメリカ	41,405	3,559	33,979	3,664	203	100.0	8.6	82.5	8.9	198.4
ブラジル	126,091	22,725	98,902	3,859	605	100.0	18.1	78.8	3.1	116.8
ペルー	34,575	6,405	26,849	1,191	130	100.0	18.6	77.9	3.5	108.0
その他 ¹⁾	315,753	30,606	259,061	11,392	14,694	100.0	10.2	86.0	3.8	131.3
(参考)										
日本 (千人)	124,284	15,693	74,395	33,230	966	100.0	12.7	60.3	26.9	94.8

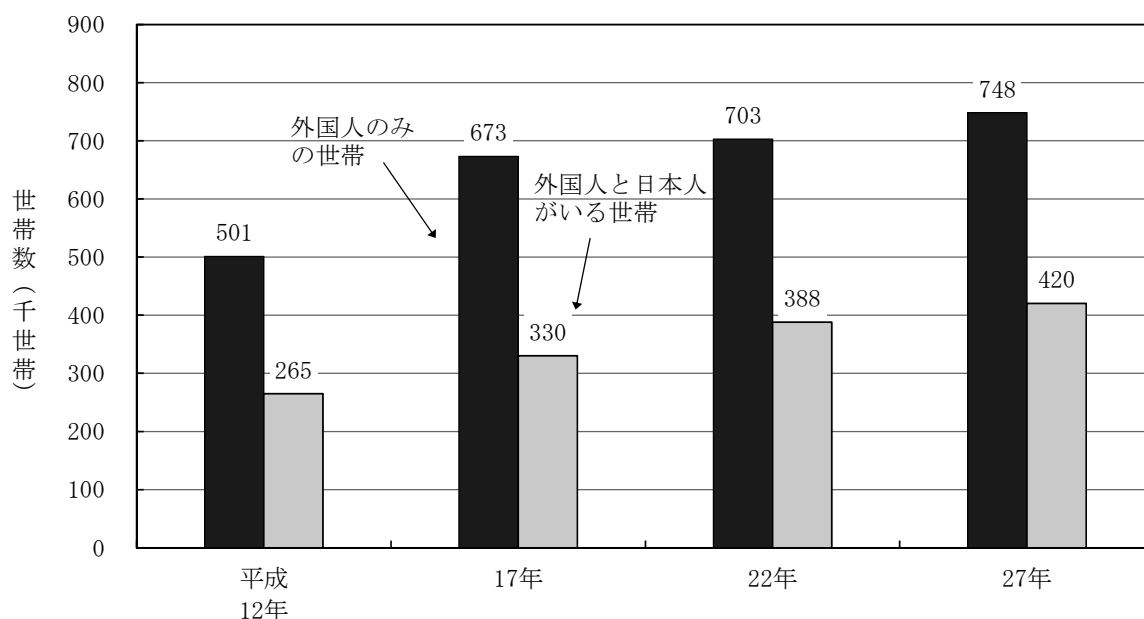
1) 無国籍及び国籍「不詳」を含む。

3 外国人のいる世帯

外国人のいる一般世帯数は平成12年から一貫して増加

外国人のいる一般世帯数は117万2千世帯で、このうち、外国人のみで構成される世帯が74万8千世帯、外国人と日本人がいる世帯が42万世帯となっている。平成12年からの推移をみると、外国人のみで構成される世帯数及び外国人と日本人がいる世帯数は、共に一貫して増加している。(図13-2)

図13-2 外国人のいる一般世帯数の推移—全国(平成12年~27年)



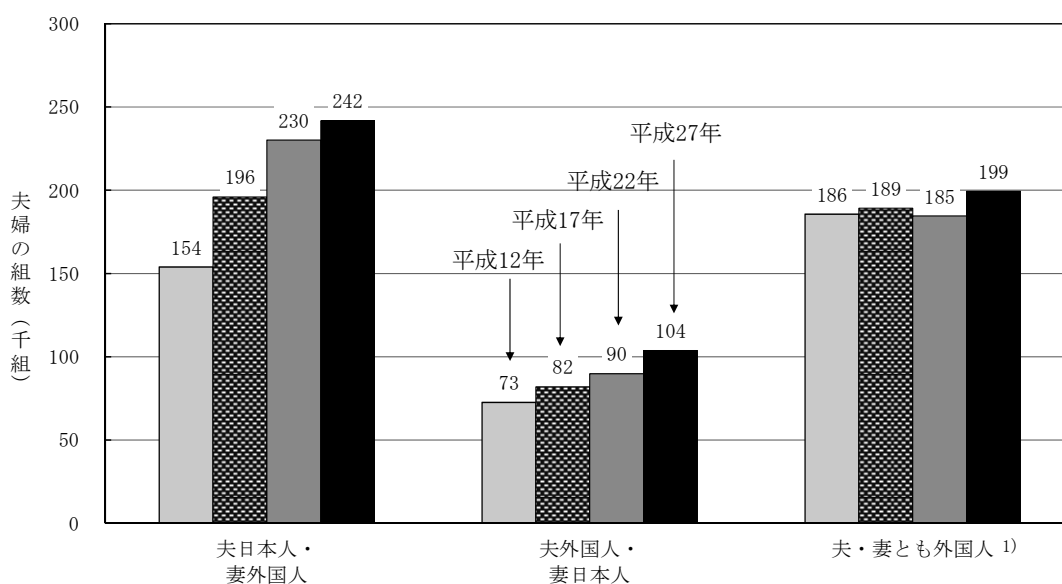
夫・妻とも外国人の夫婦数は、平成22年と比べ8.1%増加

平成27年国勢調査による日本国内に常住する夫婦は2987万9千組で、そのうち外国人を含む夫婦(夫・妻のいずれか又は両方が外国人である夫婦)は54万5千組となっている。また、外国人を含む夫婦数は、平成22年と比べ4万組(8.0%)増加している。

外国人を含む夫婦を夫・妻の国籍別にみると、夫が日本人で妻が外国人の夫婦は24万2千組で、その内訳を妻の国籍別にみると、「中国」が7万8千組と最も多く、次いで「フィリピン」が6万7千組、「韓国、朝鮮」が4万3千組などとなっている。また、妻が日本人で夫が外国人の夫婦は10万4千組で、その内訳を夫の国籍別にみると、「韓国、朝鮮」が3万組と最も多く、次いで「中国」が1万4千組、「アメリカ」が1万3千組などとなっている。夫・妻とも外国人の夫婦は19万9千組で、その内訳を夫婦の国籍が同じ夫婦について国籍別にみると、「中国」が6万3千組と最も多く、次いで「韓国、朝鮮」が4万7千組、「ブラジル」が2万2千組などとなっている。

外国人を含む夫婦数について、平成12年からの推移をみると、夫・妻のいずれかが外国人である夫婦は一貫して増加している。一方、夫・妻とも外国人の夫婦は、平成22年までは横ばい傾向となっていたが、平成27年には22年と比べ1万5千組増加している。(図13-3、表13-5)

図13-3 外国人夫婦数の推移—全国（平成12年～27年）



注) 無国籍及び国名「不詳」を含む。
1) 夫と妻の国籍が異なる場合を含む。

表13-5 夫の国籍，妻の国籍別夫婦数—全国（平成22年，27年）

夫婦の国籍	夫婦数		平成22～27年の増減	
	平成27年	22年	増減数	増減率(%)
日本国内の夫婦総数 ¹⁾	29,879,136	30,613,187	-734,051	-2.4
日本人同士の夫婦	29,289,490	30,067,334	-777,844	-2.6
外国人を含む夫婦	544,874	504,526	40,348	8.0
日本人と外国人の夫婦	345,434	319,962	25,472	8.0
夫日本人・妻外国人 (妻の国籍)	241,681	230,181	11,500	5.0
中国	77,977	70,262	7,715	11.0
フィリピン	66,620	69,059	-2,439	-3.5
韓国，朝鮮	43,342	44,193	-851	-1.9
タイ	15,051	14,581	470	3.2
ブラジル	4,615	4,779	-164	-3.4
ベトナム	2,925	1,967	958	48.7
その他 ²⁾	31,151	25,340	5,811	22.9
妻日本人・夫外国人 (夫の国籍)	103,753	89,781	13,972	15.6
韓国，朝鮮	30,232	29,332	900	3.1
中国	14,273	12,091	2,182	18.0
アメリカ	13,076	10,751	2,325	21.6
イギリス	4,622	3,762	860	22.9
ブラジル	3,524	2,934	590	20.1
フィリピン	2,068	1,603	465	29.0
その他 ²⁾	35,958	29,308	6,650	22.7
夫・妻とも外国人 ³⁾ (夫婦の国籍)	199,440	184,564	14,876	8.1
中国	63,097	50,307	12,790	25.4
韓国，朝鮮	47,402	56,818	-9,416	-16.6
ブラジル	22,190	28,167	-5,977	-21.2
フィリピン	9,569	6,915	2,654	38.4
ベトナム	5,408	3,176	2,232	70.3
ペルー	5,347	6,104	-757	-12.4
その他 ²⁾	37,403	25,802	11,601	45.0

1) 日本人・外国人の別「不詳」を含む。
2) 無国籍及び国名「不詳」を含む。
3) 夫と妻の国籍が異なる場合を含む。